

9月21日 『障害のある人も地域で生きるために』



NPO 法人 WISH8 籠倉 正美

NOZOMI の歴史と WISH8 になるまでをご紹介します。

NOZOMI とはハンディキャップを持つ子どもとファミリーのチームです。主に八潮の特別支援学級に通う子供と親たちのグループです。八潮市には心身障害児訓練施設・のぞみという療育施設が南川崎にあります。南川崎保育所の中に併設されています。

3歳検診などで発達に問題があり療育が必要だと判断された子供が無料で療育のできる素晴らしい施設が八潮市にはあるんです。

そこで仲良くなったメンバーで情報が欲しいとの思いから YAHOO メーリングシステムを使い情報共有し合いました。

2011 年いつも借りていた会場が閉鎖することになり、会場を求めて社会福祉協議会へ当事者団体として登録致しました。

2012 年助成金を申請するため総会をしっかりと開いて信用と信頼のある会として名前ものぞみちゃんから NOZOMI へ改名しました。

実は、改名の理由は障がい者と高齢者のスポーツの祭典でのぞみちゃんと呼ばれるのは恥ずかしいという安易なものでした。

メーリング登録者はどんどん増えて最大時はネット上で66名を数えましたが3年前、参加が何年もない方は整理させて頂き、現在は26名登録しています。その中の13名で NPO 法人 WISH8 を立ち上げました。

八潮の特別支援教育についてお話しします。

八潮市は近隣の市町村と比べ、福祉や障害児者を取り巻く環境にとっても優しい市だということがこの研究を通して感じました。

これは驚きでした。

その1つに八潮市の特別支援教育があります。

八潮市は平成28年4月に八潮市内の全ての小中学校に特別支援学級が設置されました。

特別支援学級とは昔は特殊学級やなかよし学級などと呼ばれていたクラスです。

そして設置しただけではなく、法律では8人の生徒に先生1人で良いのですがそれよりも多く先生がいて子供たちの安全を守ってくれています。

埼玉県自体も、これに力を入れていて、三郷市や草加市なども特別支援級が全校設置されていますが、越谷市はまだ全校設置されていません。

その他にも普通クラスにいる支援が必要な児童がたくさんいます。保護者がなかなかお子さんの障害を認められなかったりして学校生活についていけない児童などに担任とは違う先生がついてくれるなどとても手厚く八潮の子供たちは守られています。

また、学校に障害のある子供がいるという日常は、健常の子供たちにとってもホスピタリティーを自然に学べる環境だと思います。

2006年「障害者権利条約」が国連で採択され

2007年高村外務大臣により権利条約に署名がなされました。

署名とは近いうち国連の国々と同じようにすることです。条約に批准するよ。ということです。

その後、権利条約に合わせるために国内法が整備・改正されました。

2013年12月4日の参議院本会議で障害者権利条約の批准が承認されました。

これにより、日本は「障害者権利条約」を遵守することを国際的に約束しました。

最近ではH28年4月1日に障害者差別解消法が施行されました。

障害者を取り巻く環境は驚くほど変わりました。

小学校を卒業して、私はわが子のその先を考えるようになりました。

それは特別支援学校の高等部を卒業した後のことです。

障害児にとって18歳になるということは大人になるということ18歳からは障害児ではなく障害者になります。

また障害者を取り巻く法律も児童福祉法から障害者総合支援法になります。

それでは高等部を卒業した後どんなところで過ごす(働くのか)ことが一般的かご説明いたします。

①生活介護←こちらは介護なので働きません。(重度の障害者のための施設です)

相模原の入所者19名が殺害された施設『津久井やまゆり園』は入所型の生活介護事業所に該当します。

②就労継続B型事業所

雇用契約を結ばない福祉的就労です。

1月のお給料が¥3000~15000位と事業所ごとにまちまちです。

③就労継続A型事業

所雇用契約を結ぶすなわち法定賃金を約束する福祉的就労です。

④就労移行

一般の会社に就労するために訓練をするところです。

⑤同じように働くこと、障害者枠での一般就労もあります

特例子会社などもあります。

障害者の法定雇用率はH25年より2%とされている障害者雇用促進法では50人以上社員がいる企業は障害者を1人は雇用するよう推進されています。

しかし雇用するより罰金(障害者雇用納付金といいます。)月額1人に4万円~5万円を払うことのほうがリスクがすくないので

なかなか雇用は進みません。

昔、障害児者の親の願いは

この障害のあるわが子より1日だけ長く生きていたい

死を見届けてから自分も命を終えたいといった切ないものでした。

最近の私たちの願いは私たちが先に亡くなっても

地域で穏やかに暮らせるような環境であって欲しいそれを作っていきたいと思っています。

安心して先に死に逝ける世の中を願っています。

私たちに何ができるかホントにできることがあるのか？

はまだ模索中ですが私たち親も努力を惜しまないことを決めました。

貴重なお時間ありがとうございました。